2022.02.23 開催

第 3 回施設・環境・設備安全セミナー　進行予定

進行予定

（文中、敬称略）

12:45～　入室開始

12:55～　事務局からの説明

13:00～　開会挨拶

筧 淳夫(工学院大学 建築学部長・教授／部会長)

13:05～　ワークについての説明

13:10～　グループワーク

ファシリテーター:施設・環境・設備安全部会　部会員
検討事例:

①「酸素流量計を患者の顔面に落下させてしまった事例」

②「Bed から車いすへの移乗時、左下腿にスキンテア発生」

③「車いす用体重計の不適切使用による転倒事例」

13:55～　全体協議(発表、ディスカッション)
筧 淳夫

14:55～　総括・閉会挨拶
筧 淳夫

15:00～　参加後アンケートについての説明

進行の都合上、時間配分や順序等について予告なく変更させていただく可能性がございます。
予めご了承ください。

司会・ファシリテーター　一覧

施設・環境・設備安全部会 部会員が司会・ファシリテーターを務めます。

■司会・ファシリテーター

担当	氏名	所属	部署	役職
司会	◎筧 淳夫	工学院大学	建築学部 建築デザイン学科	学部長 教授
1～3グループ	小菅　瑠香	帝塚山大学	現代生活学部 居住空間デザイン学科	准教授
4～6グループ	小林　健一	国立保健医療科学院	医療・福祉サービス研究部	上席主任研究官
1グループ	楠本　茂雅	社会医療法人生長会	クオリティ ・マネジメント本部	部長
2グループ	柴田　康宏	社会医療法人同仁会	役員室	専務補佐
3グループ	土田　真人	医療法人社団藤聖会 富山西総合病院	院内感染対策室	院内感染管理者 兼　看護師長
4グループ	樋口　広行	社会医療法人喜悦会		法人本部長
5 グループ	深澤　美由記	医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院	情報管理部 医療安全管理課	課長
5 グループ	三澤　純	公益財団法人操風会 岡山旭東病院	薬剤部	薬剤部長
6 グループ	三浦　雅博	三浦雅博アトリエ		主宰
6 グループ	宮崎　浩彰	関西医科大学	医療安全管理センター	副センター長 兼 理事長特命教授

◎:部会長

酸素流量計を患者の顔面に落下させてしまった事例

無断転載・二次利用禁止

事例紹介

- 80代　男性　循環器系疾患で集中治療室へ入院。
- 入院翌日、一般病棟へ転棟決定。
  一般病棟の看護師が患者受け入れ準備の際に、酸素投与していることを把握し、扇型の四人病床の大部屋の一室の**中央配管に酸素流量計を準備**した。

無断転載・二次利用禁止

事例紹介

➢集中治療室から一般病棟へベッドで搬送し、ベッドを設置。

➢集中治療室で、酸素投与が終了されていたため、準備された**酸素流量計を外す際に、酸素流量計をつかんでいた右手が滑り、患者の右眼上に落下させてしまった。**

外傷性視神経症でステロイドパルス療法を施行。1年間の外来での経過観察を要した。

無断転載・二次利用禁止

要因

1．ベッドの頭上に中央配管があること。

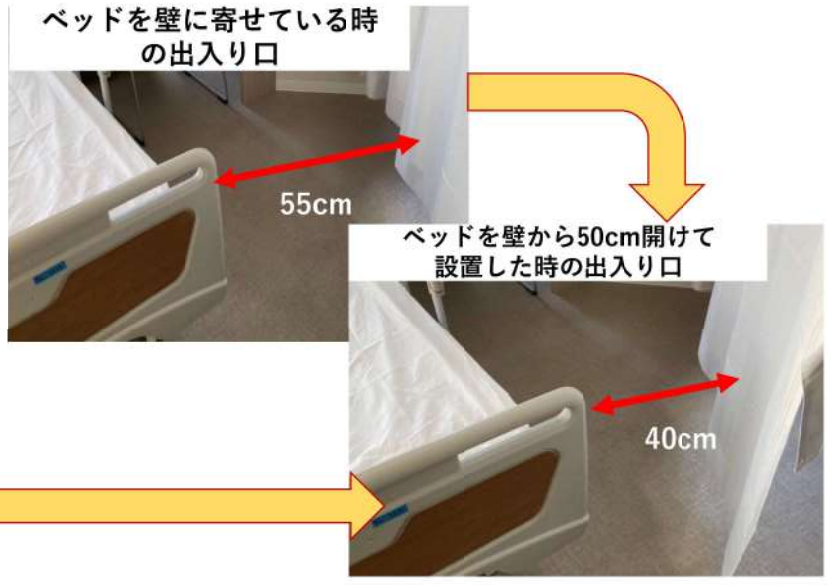
無断転載・二次利用禁止

要因

2．扇型の四人病床の大部屋であり、各患者の部屋への出入りや搬送器具を出し入れする際のスペースが狭く、ベッドを中央配管のある壁側へ寄せることで、スペースを確保している。
そのため、**常時ベッドを壁側に寄せてしまっている。**

無断転載・二次利用禁止

中央配管のある壁から、1人が充分作業できるスペース（50cm）を開けてベッドを設置すると出入り口が狭まる。



無断転載・二次利用禁止

対策

医療安全委員会での検討内容

1．中央配管の壁に「取り外し注意！」と貼り、注意喚起を促す。

2．ベッドの定位置をテープなどで示す。

患者への注意喚起ではなくスタッフへの注意喚起なので、療養環境上適切ではないと判断。

決定した対策

酸素流量計や吸引器の取り付け及び取り外しを行う際は、壁側からベッドを移動して、スペースを確保して行うことを周知

無断転載・二次利用禁止

現状と問題点

対策がスタッフ各個人に依存している状態である。

①事例を風化させないように、対策の周知を定期的に繰り返す。

②対策が遵守できているか定期的に監査する。

無断転載・二次利用禁止

Bedから車いすへの
移乗時、
左下腿にスキンテア発生

無断転載・二次利用禁止

患者紹介

- 女性 90代
- 既往 慢性腎臓病、慢性心不全、両下肢重症下肢虚血
  糖尿病、僧帽弁閉鎖不全症（人工弁置換術後）
- 2019年8月 腸炎を契機とした心不全増悪により呼吸困難となり救急入院。
- ADL 体位変換要介助。
  車椅子への移乗は、看護師1人で介助
  9月　TP5.5　Alb2.9

無断転載・二次利用禁止

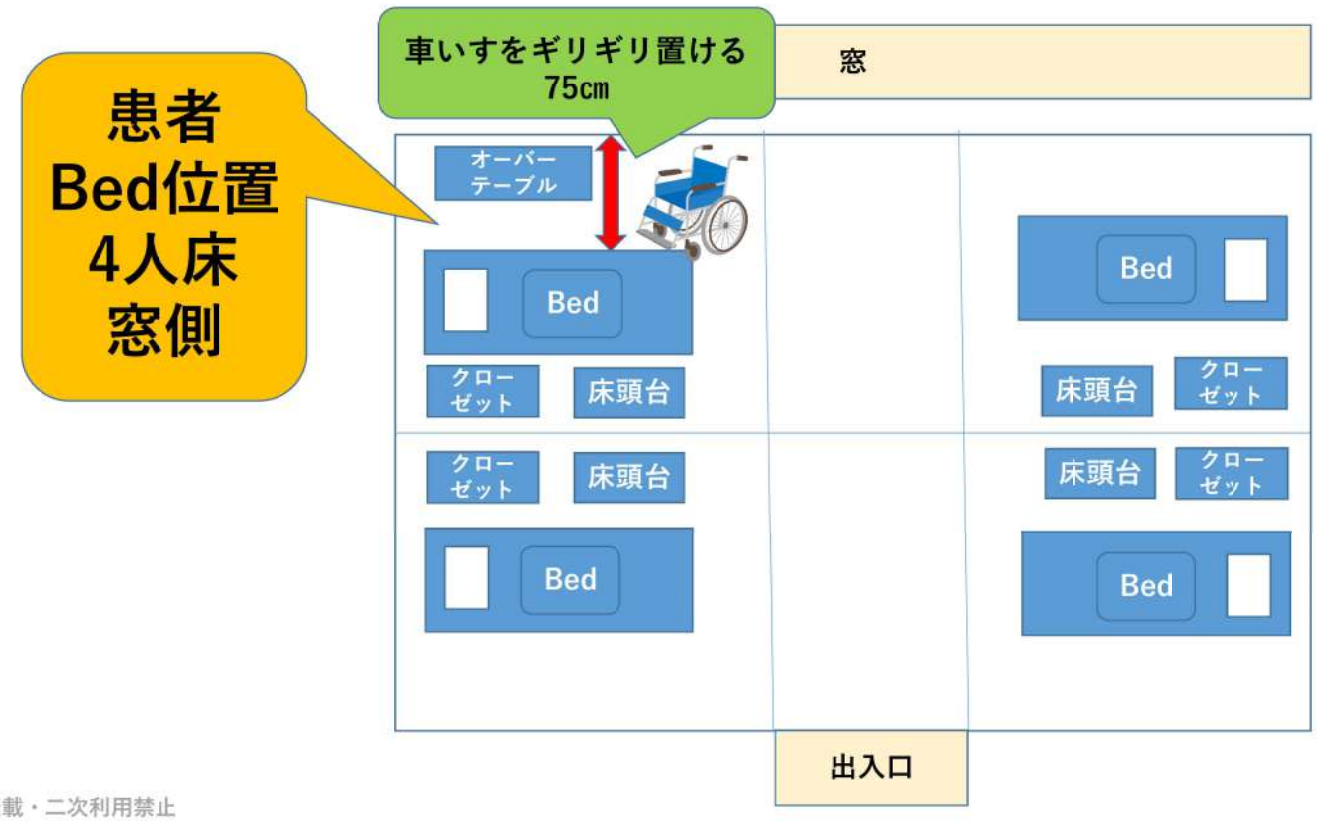
事例発生

Bedから車椅子へ移乗

患者が「痛い」と発言

左下腿にスキンテア発生

無断転載・二次利用禁止



無断転載・二次利用禁止

端坐位になった
患者の右側に
車いすを設置

無断転載・二次利用禁止

・看護師は患者の下肢の間に自分の足を入れ、患者の腰をつかんだ。
・患者は看護師の首に手を回した。

無断転載・二次利用禁止

・回転した際、患者の左下腿がフットレストと接触した

無断転載・
二次利用禁止

原因

- 高齢者の皮膚の脆弱性に合わせたケアの不足
- 介助技術の未熟

再発防止策

- 皮膚を着衣で保護する
- 介助技術の向上

無断転載・二次利用禁止

車いす用体重計の不適切使用による転倒事例

無断転載・二次利用禁止

事例紹介

【年　齢】96歳
【性　別】女性
【疾患名】心不全
【既往歴】糖尿病、胃がん、脊椎圧迫骨折、両大腿骨骨折術後
【入院までの経過】
施設入所中に発熱、全身浮腫、酸素化不良を認め、当院に紹介。
心不全の治療のため入院となる。
【入院後の経過】
酸素、薬剤投与にてうっ血や胸水が改善。リハビリも早期開始され、
見守りにてシルバーカーで廊下を歩行できる状態に改善。
退院調整のため、循環器内科病棟から地域包括ケア病棟へ転棟となった。

無断転載・二次利用禁止

ADL

【施設でのADL】
室内歩行器使用で自立。
更衣・整容は時間がかかるが自立。
【入院直後のADL・精神状態】
床上安静の指示だが、繰り返しベッドから起き上がる。
興奮、多弁あり。
【入院3日目からADL・精神状態】
夜間せん妄みられる。
運動耐容能向上を目的にリハビリ開始。
端坐位保持、立ち上がり、移乗動作見守りで可能。
病室内シルバーカー歩行は軽介助。

無断転載・二次利用禁止

転倒予防に関する援助

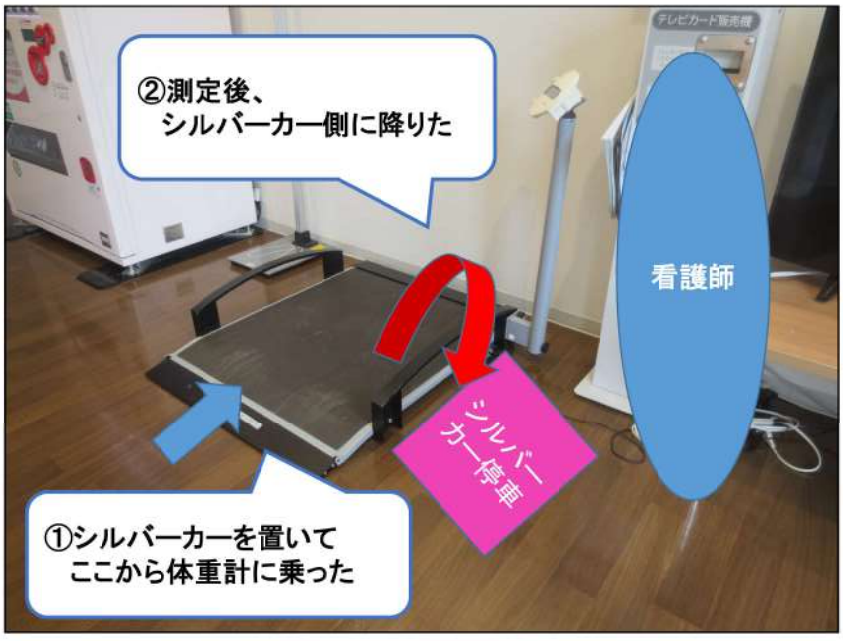
【センサー設置】
離床CATCH　起き上がり0秒設定
（ナースコールは自ら押せない）
【排泄】
日中トイレ誘導するが、基本的に失禁対応。
【その他】
離床CATCHのコール対応し、患者の希望に沿って必要な援助を実施。
日中はシルバーカー歩行を、看護師見守りで実施。
理学療法士によるリハビリ、言語聴覚士の嚥下訓練、空き時間にぬり絵。

無断転載・二次利用禁止

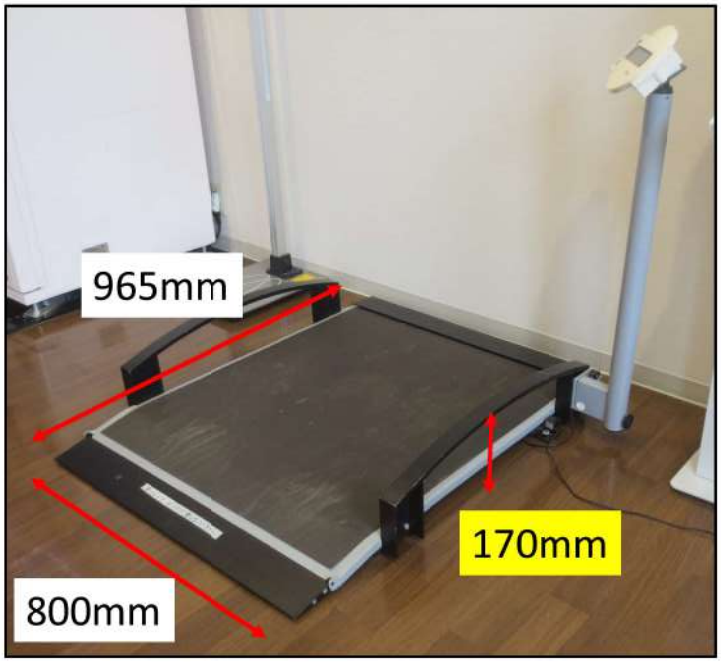
転倒時の概要

●地域包括ケア病棟に転棟後、2日目。
●毎日10時に行っている体重測定のため、看護師見守りで、シルバーカー歩行で体重計のあるデイルームへ移動。
●車いす用の体重計で測定。
●患者は、シルバーカーを停車している右側へ降りようとし、体重計のフレームに足が引っ掛かった。
●傍にいた看護師が体を支えるが、一緒に座り込み、転倒。
●CTにて左大腿骨骨幹部骨折を認め、直達けん引開始となる。

無断転載・二次利用禁止



無断転載・二次利用禁止



無断転載・二次利用禁止

要因①車いす用の体重計を使用

・本来、車いすに乗ったまま体重測定するための体重計だった。

無断転載・二次利用禁止

要因②車いす用の体重計と周知されていない

・当該病棟には、手すり付きの体重計がなく、日常的に通常の体重測定で利用されていた。

無断転載・二次利用禁止

要因③車いす用体重計しかなかった

• 手すり付きの体重計、身長体重計が配置されていなかった。

当該病棟の体重計

その他病棟の体重計・身長体重計

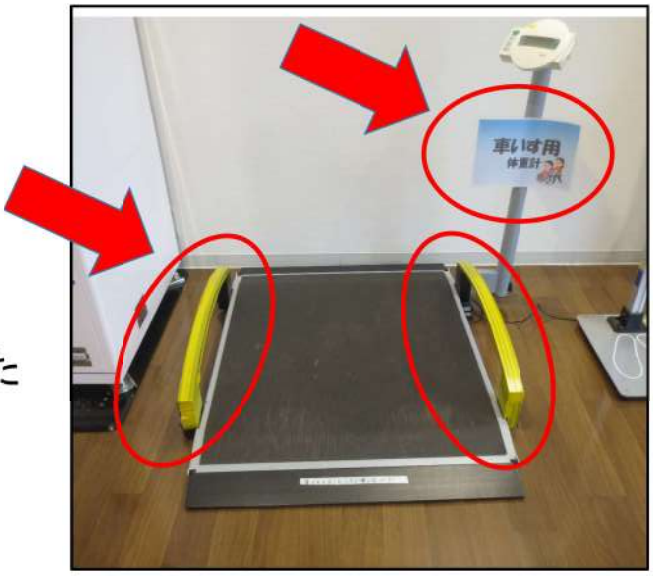
無断転載・二次利用禁止

要因④黒色のフレームで障害物として認識できなかった

無断転載・二次利用禁止

対策

【対策1】
・要因①②に対して
　「車いす用体重計」の表示をした
【対策2】
・要因③に対して
　手すり付きの体重計を購入、設置した
【対策3】
・要因④に対して
　フレームを黄色のテープで覆った



無断転載・二次利用禁止

課題

①病院全体で統一した（身長）体重計の設置
が望ましいが、コスト面で現実的ではない…

②一方で車いす用の体重計も需要があり撤去できない

③より安全な介助の方法の確立やリスクアセスメント能力を養う教育

無断転載・二次利用禁止